

## 活用方針



### VLP取組概要



#### ■ VLP活用のねらい

- 自宅にひきこもりがちな児童・生徒が、自宅から専門的な教育相談を受けたり、個々のペースで教科等の学習や社会的自立に向けた取組を行うことで、リアルな人や社会とつながるきっかけとする。
- オンラインでの日本語指導を充実させることにより、日本語指導を必要とする児童・生徒が、日本語に触れて学んだり相談できる機会を創出する。

#### ■ 対象生徒・児童

- ひきこもり傾向等、学校だけで対応が困難な不登校児童・生徒約200名からSSWが対象を抽出
- 日本語指導を必要とする児童・生徒 100名程度

#### ■ 運営時間

- 月～金 8:00～18:00 ※土日祝日はお休み

#### ■ 活用方法

- VLP上で日常会話や相談を実施
- 「デキタス」を活用した各教科の学習
- 「みんなでプログラミング」を活用したプログラミング学習
- 「すららにほんご」を活用した日本語学習
- 日本語で会話する場としての活用

## 活動・取組み内容



### 活動・取り組み内容

#### 【前期】

- ✓ 不登校については、スクールソーシャルワーカーがメンターとなり、操作方法等を含めて、丁寧な事前準備のもと、対象生徒・児童にアカウントを配付して、利用を開始した。
- ✓ スクールソーシャルワーカーとの面談による相談・支援の他、学習コンテンツ（デキタス）の利用を促し、学びの場としての利用を促進した。
- ✓ 日本語指導については、日本語学級の教員が、日本語指導の充実としてVLPを活用できるよう、個人ではなく日本語学級にアカウントを配付する形で運用を開始した。

#### 【後期】

- ✓ 不登校については、居場所づくりとしての機能の充実を図るため、都の支援員と連携し、「オンライン部活動」を開始した。
- ✓ 利用者の増加に向け、校長会での説明や運用開始についての通知等で、VLP活用の理解を促した。
- ✓ 日本語指導については、オンラインによる日本語指導の効果的な指導方法を検討した。

## 成果/好影響・次年度以降の方針・利用者の声

### 成果/好影響

#### 学習機会の確保とコミュニケーション量の増加

- ✓ 学習コンテンツの利用が定着し、自身のペースで定期的に学習する習慣が身に付いた児童もあり、保護者も安心していた。
- ✓ チャットやアバターを活用することで、対面で人と話すことが苦手な児童・生徒でもルーム内にいる他の児童・生徒と会話を楽しむことができるようになった。
- ✓ 利用者が増加したことで、人とつながることができる機会の充実が図られ、積極的に他者とコミュニケーションを図る場面が充実した。
- ✓ 通所以外に日本語を学習できる機会ができたことで、より日本語について理解を深めることができ、「話す力」「聞く力」を伸ばすことができた。

### 次年度以降の方針

#### 多様な支援ニーズに対応できる環境の充実

- ✓ 利用者の増加にともない、多様な支援ニーズに合致するコンテンツや相談機会等、支援メニューの充実を図る。

#### 利用促進と現実社会へのつなぎ

- ✓ 学級だけでなく、適応指導教室にも通えない児童・生徒の利用を促進する。
- ✓ VLP内で得たコミュニケーションスキルや日本語の「話す力」「聞く力」を現実社会で試すような仕組みを検討し、VLPの次のステップを充実させる。

### 利用者の声



児童・生徒

- 操作に慣れて、たくさんの友だちとコミュニケーションを取ることができた。
- アバターだと、自信をもって関わるできるので、利用することが楽しくなった。
- 学校で友だちと話をしてみたくなった。
- 学習コンテンツだと自分のペースで学習できるので、安心できるし、学習への苦手意識が軽減した。
- 複数の人との会話を通じて日本語の勉強になった。
- 普段、話をしたことがない人と話ができ楽しかった。



教職員や保護者等

- VLPの空間内での交流場面が増え、家庭での会話も自然と増えた。
- 担任がVLPを利用できることで、普段なかなか会えない児童と面談を行うなど、アプローチの手段が増えた。
- 利用者が増加することで、多様な利用者が混在し、コミュニケーションが苦手な児童や利用になれていない児童・生徒が戸惑う場面があった。
- ゲーム感覚で日本語を教えることができた。
- VLPの空間から現実社会に出るためには、さらなるきっかけ作りが必要だと感じた。

# 資料) 利用する児童・生徒に示している注意事項や入室方法 (一部)

## 2 利用に当たっての注意事項

みなさんが安心して利用できるよう、以下の点を守って利用してください。

### (1) 利用端末について

学校から貸与されたクロームブックで入室・利用する

※「はちっこるーむ」の土台となっている、東京都教育委員会のバーチャル・ラーニング・プラットフォームは、GIGAスクール施策に特化し、ブラウザでの利用を想定してシステムが組まれています。他の端末やアプリでの利用は、不具合が起る可能性があります。

### (2) ログインIDとパスワードの変更について

ログインIDやパスワードは変更せず、人に知らせない

※「はちっこるーむ」の利用者のログインIDとパスワードは、八王子市教育委員会が管理しています。IDやパスワードは、利用者である皆さんが、安心して自分のアカウントをとして利用するためにお渡ししたものですので、大切にしてください。変更した場合や他者が利用している形跡がある場合は、利用を停止することがあります。

### (3) プライベートスペースやチャット機能の利用について

みんなが安心して利用できるよう配慮し合う

※フロア内では、プライベートスペースやチャット等を使用して、アバター同士で交流することができます。しかし利用する仲間の中には、コミュニケーションに不安を抱えている子もいます。不快な言葉で相手を傷つけ、安心を奪うことがないよう、配慮しましょう。また、困ったことがあったら、オンライン支援員などにすぐ相談してください。

### (4) 利用時間と内容について

利用時間と内容を決めて利用する (担当と相談して決める)

※「はちっこるーむ」の入室時間は、**8:00 ~ 18:00** です。

※担当のスクールソーシャルワーカーや先生と相談の上、あらかじめ決めた時間と内容で利用するようにしましょう。

### (利用例)

時 間	活 動
9:30~10:00	スクールソーシャルワーカーと面談 (今日の予定の確認含む)
10:00~10:30	休憩
10:30~11:30	学習コンテンツを活用した学習 (「デキタス」の活用)
11:30~13:00	昼食、休憩、友だちと交流
13:00~14:00	学校の課題に取り組み (必要に応じて質疑・相談する)
14:00~14:30	スクールソーシャルワーカーに活動報告・次回の確認 → 退出

### (5) 健康面への配慮

目や身体の健康を 考えて利用する

IT機器使用による影響等として、「ドライアイ」や「視力の低下」、「姿勢の悪化」などが考えられます。利用するときはこまめに休憩を取るなど、健康面に十分配慮して利用するようにしましょう。

## 3 「はちっこるーむ」の基本操作

### (1) ログイン画面まで

【方法1】 <https://ticket.xrcloud.jp/login/> をアドレスバーに直接入力する。

【方法2】 クロームブック端末で閲覧できる「八王子市GIGAスクール情報ポータル」のトップページ最下部「オンライン教育支援センター「はちっこるーむ」(VLP)ログイン画面(専用IDが必要)」をクリックしてリンクでとぶ。

### (2) 入室までの手順

<手順1> 配付されたメールアドレス (ID) とパスワードを入力し、「ログイン」をクリック

